

昭和18年6月26日 大本営政府連絡会議決定

「比島獨立指導要綱」

付記一 昭和十八年六月二十六日、内閣、陸軍省、海

軍省、外務省、大東亜省申合せ

〔比島獨立指導要綱別冊第三ノ七ニ關スル申合セ〕

二 昭和十八年五月六日付、大東亜省総務局総務

課作成

〔比島獨立實施ノ時期及態様ニ關スル一考察〕

三 昭和十八年七月一日付、作成局課不明

〔獨立準備委員會ニ對スル現地軍示達經過〕

四 作成日、作成局課不明

〔比島新憲法ニ關スル説明〕

比島獨立指導要綱

一方 鈑

八紘爲宇ノ皇道ニ基キ萬邦ヲシテ各々其ノ所ヲ得シムル  
ノ大義ニ則リ帝國輔導ノ下努メテ比島ノ創意ト責任トヲ

尊重シツツ大東亜共榮圈ノ一環タル新比島ヲ生成ス

而シテ比島ヲシテ速ニ帝國ト緊密一体大東亜戦争完遂ニ  
協力シ得ル物心兩面ノ態勢ヲ整備セシム

二、指導要領

1. 獨立準備ノ目標ト爲スベキ比島及日比關係ノ基本的形

態別冊ノ如シ

2. 現比島行政府ヲ刷新強化シ獨立後ノ政府ノ主体タリ得  
ル如ク指導ス

3. 現地軍ニ對シ獨立指導ノ大綱ヲ示達シ其ノ指導下ニ比  
島側ヲシテ成ルヘク速ニ獨立準備委員會ヲ編成セシム

4. 獨立準備ノ進捗ニ伴ヒ比島ノ國家代表タルヘキモノヲ  
選定セシム之カ選定方法ハ比島側ノ創意ニ委ス

5. 獨立準備概ネ完了セハ國家代表タルヘキモノ其ノ他比  
島要人ヲ東京ニ招致シ獨立許容ニ關スル帝國ノ意圖ヲ  
正式ニ示達シ爾後現地軍指導下ニ更ニ獨立準備ヲ完成

セシム

6. 獨立ノ時期ハ概ネ昭和十八年十月ト豫定シ其ノ準備完  
了ノ時期ハ九月下旬ヲ目途トス

7. 獨立ニ伴ヒ適時米英ニ對シ宣戰セシム

8. 獨立ト共ニ締結スヘキ日比間ノ條約ハ必要ノ最少限ニ  
止ム

## 別冊

新比島及日比間ノ基本形態

### 第一 建國ノ理念

一、大日本帝國ヲ盟主トスル大東亞共榮圈ノ一環トシテ道義

ニ基ク新比島ヲ建設シ以テ世界新秩序ノ創造ニ寄與ス

### 第二 國家構成

三、比島ノ國體及政體ハ比島人自體ノ發意ニ俟チ之ヲ決定ス

四、國民ハ比島民族ヲ主トシテ之ヲ構成ス

日本人ハ比島國民タルコトナシ

五、國名、國旗、首都ハ比島側ノ發意ニ依リ之ヲ定ム

### 第三 日比關係ノ大綱

六、帝國ノ對比施策ノ要ハ比島ヲシテ努メテ比島人ノ創意ト  
責任トニ依リ眞ニ大東亞共榮圈ノ一環タル獨立國トシテ

ノ名實ヲ備ヘシムルニ在リ

七、帝國ハ比島ニ對シ專任ノ特命全權大使ヲ派遣駐劄セシム  
當分ノ間現地帝國側官憲ノ業務實施ニ關シテハ特ニ軍事

上ノ要請ヲ考慮シ實情ニ即スル如ク措置スルモノトス

八、帝國ハ比島政府内ニ所要ノ期間必要ナル顧問ヲ配置シ之  
カ指導ニ任セシム

九、「ミンダナオ」島ニ就テハ其ノ軍事的經濟の最重要性ニ鑑  
ミ特別ノ措置ヲトルコトアリ

### 第四 國 政

一〇、政治機構及之カ運用ハ努メテ強力簡素ナラシムルヲ方

### 針トス

一一、國民參政ノ範圍及形態ハ比島側ノ意志ヲ尊重シテ之ヲ  
定ム

但シ議會ヲ設ケタル場合ニ於テハ其ノ性格ハ特ニ行政ノ  
敏活ナル運用ヲ阻害セサル如ク留意ス

### 三、治外法權ハ之ヲ設ケス

但シ日本人ニ對シテハ比島人ニ比シ不利ナラサル待遇ヲ  
附與ス

一二、外交ハ帝國ニ緊密提携セシム

### 第五 軍 事

#### 四 占領地への独立付与問題

一、帝國トノ間ニ軍事上完全協力ヲ約シ帝國軍隊ノ爲一切  
ノ便宜ヲ供與ス

所要ニ應シ帝國軍隊ノ爲ノ施設等ヲ擔任ス

二、比島防衛ニ必要ナル所要ノ陸海軍ヲ保有ス

但シ兵力量及編制ノ決定ハ實質的ニ帝國之ヲ指導シ少數

ノ軍事顧問ヲ置ク

比島軍ハ戰時ノ作戰用兵ニ關シ各々在比帝國陸海軍最高  
指揮官ノ指揮ヲ承ク

#### 第六 財政、經濟及交通

一、經濟ハ大東亞經濟建設ノ計畫ニ從ヒ其ノ一環トシテ比

島ノ主權下ニ公正自由活動ニヨリ之カ振興ヲ期シ特

ニ農業、礦業及輕工業ニ重點ヲ置ク

但シ大東亞建設上特ニ必要ナルモノハ帝國ノ施策ニ順應

セシムル如ク所要ノ措置ヲ講ズ

二、金融ニ關シテハ資金ノ交流、決済方法、換算率等ニ就

キ帝國及爾他ノ地域トノ協力的體制ニ於テ之ヲ整備ス

發券機構ヲ整備シ新ナル通貨制度ヲ確立ス

三、財政ハ速ニ自立セシムル如ク指導ス

五、交通及通信ハ比島ノ主權下ニ置クモ主要ナルモノニ關

シテハ帝國ノ要請ヲ認メシム

三、比島ト他地域トノ交通及物資ノ交流ハ大東亞ヲ通スル  
計畫ニ從ヒ之カ實施ノ圓滑ヲ期ス

而シテ物資交流ノ要領ハ差シ當リ概不現狀ヲ維持スルモ  
爲シ得ル限り比島人ヲ之ニ參加均霑セシム

三、敵產ハ大東亞戰爭遂行上及大東亞經營上帝國ニ於テ把  
握スルヲ必要トル特殊且重要ナルモノ以外ハ之ヲ比島  
ニ移讓ス

#### (付記一)

比島獨立指導要綱別冊第三ノ七ニ關スル申合セ

昭和十八年六月二十六日

内閣省

陸軍省

海軍省

外務省

大東亞省

比島獨立指導要綱別冊第三ノ七ニ基ク現地ニ於ケル帝國側  
官憲ノ業務實施要領ハ左記ニ據ル

一、現ニ軍ニ於テ實施シアル事項ニシテ獨立後帝國ノ擔當ス

ヘキモノニ付テハ現地ノ實情ニ即應シツツ逐次大使ノ擔

當ニ移行スルモノトシ概ネ別紙ニ據ル

二、帝國側官憲ノ業務實施ニ方リテハ相互關連事項ニ付密ニ

協議スルモノトス

## 別紙

一、獨立ト共ニ移行スヘキモノ

### 純外交

政務ニ關スル交渉

帝國臣民ニ關スル事務

移植民、海外拓殖事業ニ關スル事務

文化事業ニ關スル事務

三、獨立後現地ノ實情ニ即應シ成ルヘク速ニ移行スヘキモノ

直接軍ニ關係少キ政務事項

三、狀況之ヲ許スニ至ラハ移行スヘキモノ

其ノ他ノ政務事項

## (付記二)

比島獨立實施ノ時期及態様ニ關スル一考察

(昭和一八、五、六、總、總)

一、比島獨立ノ態様(獨立ノ時期、條件、地域等)ハ比島獨立

ニ依リ所期セントスル目的ニ依リテ決定セラル

二、比島獨立ニ依リ達成セントスル目的ニアリ其一ハ中華民

國國民政府ノ承認及之ニ附隨セル一聯ノ所謂新政策、佛

印ノ領土保全、泰ノ獨立保障、「ビルマ」ニ對スル獨立

許容等ニヨリ帝國カ漸次世界ニ示シツツアル「萬邦ヲシ

テ各々其ノ所ヲ得シムル」ノ具體的計畫ノ一部分トシテ

之ヲ行フコトニ依リ一方ニ於テハ米英ニ對シ帝國ノ今次

戰爭目的カ何等侵略的意圖ヲ有セス其ノ開始ノ場合ニ於

テハ專ラ外部ヨリ強ヒラレタル自存自衛ニ基クモノナル

ト共ニソノ開始後ニ於テハ廣大ナル地域ノ戡定ヲ完了セ

ル現實ノ事態ノ下ニ於テモ一二「道義ニ基ク新秩序」ナ

ル理念ノ下ニ東亞ノ安定ヲ確保シ惹テハ世界ノ平和ニ貢

獻セントスルモノナルコトヲ如實ニ立證スルコトニ依リ

テ米英ノ既ニ宣言セル幾多ノ戰爭目的ニ對シ單ナル理論ニ加フルニ實踐ヲ以テ對抗シ敵側戰爭目的ノ正義性ヲ剝奪スルト共ニ「戰爭目的ノ正義性」ニヨリテ培養セラル

ル敵國人民ノ戰爭完遂ヘノ關心ヲ崩壊セシメ又東亞ノ諸

(眞カ)

モノナリ

地域ニ對シテハ少クトモ敵側ノ企圖スル戰爭目的ヲ晦暝  
ナラシメ敵側戰後計畫トノ比較乃至批判ヘノ實證的論據  
ヲ與フルト共ニ他方ニ於テ東亞ノ諸地域ニ對シテモ帝國  
ノ企圖スル戰後經營ノ輪廓ヲ示スコトニ依リ帝國カ既ニ

「コミット」セル幾多ノ確約ヲ安ンシテ信賴シ自己保全

ノ安全感ヲ增加セシムルコトニ依リ日本ヘノ自發的協力

ヲ培養セシメ惹テハ米英ヘノ信仰的聯關ヲ逐次絶タシム

ルニ在リ其ニハ比島自體ニ關スル問題ニシテ比島カ其ノ

米領タリシ時代ニ於テ既ニ獨立能力アルモノトシテ憲法

ト一定範圍ノ自治權ヲ與ヘラレ且一定期間後完全ナル獨

立ヲ與ヘラルルコトトナリ居ルコト並ニ前記歴史的經緯

ニ鑑ミ比島人心カ獨立ヲ期待スル希望ハ相當浸潤シ居レ

ルコト等ノ觀點ニ立チ比島ニ獨立ヲ許容セハ比島人心ノ

動向ハ漸次對日協力ヘノ態勢ヲ誘致セラレ從テ當面ノ問

題トシテハ現地治安ノ確保、日比協力、帝國ノ勞力省略

等ノ結果ヲ招來スヘキコトヲ目的トスルモノナルト共ニ

戰後ニ於テモ比島カ共榮圈ノ一環トシテノ本質ヲ具有シ

東亞安定ノ一因子トシテ存續スヘキ將來ノ課題ヲモ含ム

三、前記其一ノ目的換言セハ政戰兩略ノ見地ヨリ謂ヘハ現戰  
局ノ段階ニ於テ獨立ノ時期ハ早キ程效果大ナルヘク其ノ  
條件ニ於テモ成ルヘク輕キ方宣シカルヘシ尤モ此ノ場合  
ニ於テモ左ノ條件ハ考慮セサルヘカラス

(イ)比島憲法ノ基礎タル米國式觀念ノ是正

政戰兩略ノ見地ニ基ク比島獨立ノ態様ニ付テハ出來得

ル限り比島官民ノ腦裡ニ染込ミ居レル形體ニ於テ獨立

ヲ認ムルコトヲ得策トスルモ人民主權ノ思想ノ如キ根

本的問題ニ付テハ何等カノ道義的理念ニ變更セシムル

コトヲ要請セラルヘシ蓋シ建國ノ根本精神ニ付東亞的

(?)性格ヲモ與ヘサレハ米國ノ對比島政策ヲ全然踏襲

スルコトトナリ惹テハ彼我戰爭目的ノ區分ヲ混線セシ

ムル惧アルニ依ル

(ロ)通信ノ把握

比島ノ敵國ト隔絶セル孤島タル地位竝ニ日本ノ支配權

ニ圍繞セラレ居ル地位ニ鑑ミ(此ノ地位ハ永續的ナル  
コトヲ前提トス)比島ニ對スル日本ノ要求ヲ聽從セシ

メ得ヘキ客觀的條件ヲ具備スルヲ以テ米國ト比島トノ

連絡ヲ切斷スル點ニ重點ヲ置キ比島自體ノ内政問題ニ  
ハ出來得ル限り干渉ヲ避ケルヲ可トス從テ現在ノ立法、  
司法、行政ノ各機構及其ノ運用ノ方式等ハ努メテ尊重  
ス

(イ)太平洋戦争遂行ノ觀點ニ基ク海軍根據地等ノ設定(最  
大限ノ陸軍兵力ノ撤收)

(二)憲法殊ニ身體財産ノ保護等ニ關スル規定ノ大統領ニ依  
ル宣言及大赦令ノ公布

四、前記其二ノ目的ヨリ謂へハ先ツ現段階ニ於テ比島人心收  
擄ニ確實ナル效果ヲ舉クルカ如キ實情ヲ十分検討セサル  
ヘカラサルト共ニ戰後ニ於テ比島カ東亞圈内ノ獨立國ト  
シテ存續スルモ日本トノ關係ニ於テ東亞禍根ノ一因子ト  
ナル惧アルカ如キ要素ハ悉ク之ヲ摘ミ取り置ク要アリ之  
カ爲ニハ左ノ諸點ヲ考ヘサルヘカラス

(イ)其一ノ目的ノ場合ト同様米國的觀念ノ是正ニシテ此ノ  
場合ニハ更ニ徹底的ニ之カ清算ヲ圖ラサルヘカラス即  
チ憲法ヲ制定スルトシテモ國民議會人民直接投票等ノ  
形態ニ依ルコトナク一定ノ準備期間(少クトモ一年)ヲ  
置キ比島民衆ノ輿望ヲ荷フ人物ノ育成ニ努メ之ニ軍司

令官ヨリ獨立後移讓サルヘキ權限ヲ逐次依託シ同人ノ  
權限ヲ以テ憲法ヲ制定セシメ他方諮詢會議ヲ構成シ之  
ニ諮詢セシムル等ノ形ヲ考案ス憲法制定後同人ヲ單ニ  
行政部長官ノ長タラシムルヤ(此ノ場合ハ大統領空席、  
權限代行又ハ大統領トシテ憲法ニ從ヒ更迭ヲ認ムル  
ヤハ時ノ情勢ニ依リ判斷セサルヘカラス

又代議的憲法ヲ認ムルコト不可(ソノ理由ニ對シ理論  
的根據ヲ與フルコト困難ナルヘシ)トナスニ於テハ軍  
司令官ヨリ移讓ノ權限ニ基キ行政委員會及諮詢會議ノ  
如キモノヲ構成スヘキカ

(ロ)次ニ(イ)ト關聯シ最モ問題トナルハ人ノ問題ナリ「バル  
ガス」ハ衆目ノ視ル處汪、「バーモ」ノ貫祿無キカ如  
シ從テ何人ニ比島獨立後ノ政權ヲ託スルヤハ永久ノ日  
比關係ヲ考慮スルトキ輕々ニ決定スヘキニ非ス「バル  
ガス」ヲ起用スルトセハ日本側ニ於テ充分ナル理解ト  
協力ヲ與ヘ彼ニ箔ヲ付ケテ比島救國ノ主タルカ如キ地  
位ヲ創作スルニ不斷ノ努力ヲ傾倒セサルヘカラス或ハ  
「ロハス」ノ如キ人物ヘノ工作ヲ進メ獨立ノ時期迄ニ  
ハ結局ニ於テ時局收拾ノ能力ト實力アル人物ヲ捕捉セ

#### 四 占領地への独立付与問題

サルヘカラス然ラサレハ帝國ノ目的ニ沿フ結果即チ比島人心ノ收攬等ハ却テ期シ難キニ至ルヘシ此ノ觀點ヨリセハ獨立準備期間ハ相當長キヲ要シ拙速ハ戒メサル可カラス

(イ)第三ニ比島人ノ頭ノ持チ方乃至潛在的觀念ノ轉回ノ問題ナリ比島人ハ米國トノ折衝ニ於テ現在ノ形式ノ憲法ヲ與ヘラレ且米比通商ノ問題ヲ除イテハスカル獨立ノ方式ヲ以テ所謂獨立ノ獲得ナリトナス考へ方ニ支配セラレ居ルコト必定ナルヲ以テ人物ノ選定ヲ誤リ剩ヘ東亞的「イデオロギー」ヲ盛ラレタル統治方式ヲ與ヘラルニ於テハ果シテ所期ノ如ク隨喜スルヤ否ヤ疑ハシ此ノ場合ニ於テハ帝國トシテ戰後ノ問題ヲモ考慮シ更ニ幾多ノ條件ヲ押シ付ケサルヲ得ス從テ又效果ヲ減殺スヘシ尤モ所期ノ如キ準備力十分完了セル場合ハ始メテ比島獨立ヲ實施スヘキ時ナルヲ以テ斯カル時期ニ於テハ主要人物ノ責任ト創意ヲ尊重シ其一ト同等程度ノ條件ニテ宜シカラン

吾、前記兩目的ハ勿論相互ニ關聯シ主トシテ政戰兩略ノ見地ヲトルカ又ハ主トシテ實體的把握ヲ確保スルカノ點ニア

ル處現在ニ於テハ（情勢ノ變化セサル限り）其一ノ目的ノミヲ期シテ施策セサルヘカラサル絕對的ノ必要アリトハ謂ヒ難シ從テ其二ノ目的ヲ考慮シツツ同時ニ其一ノ目的ヲ達成スル遣方ヲ上策トスヘキ處之レカ爲ニハ前述ノ通り相當ノ期間ヲ必要トス故ニ專ラ政治的考慮ヨリ性急ニ事ヲ運フコトハ危險ナリ少クトモ二年位ノ期間ヲ置キ獨立ノ時期ヲ明示スルコトハ對外關係上好影響アリ且内部的ニ一ノ推進力ヲ作ル意味ニ於テ打ツヘキ手ナリト考ヘラルモ此ノ期間中ノ工作ニ付テハ目的ヲ明確ニ把握シ此ノ目的ニ沿フ様着實ニ下地ヲ築キ上ケルノ要アルモノト考ヘラル

#### (付記三)

獨立準備委員會ニ對スル現地軍示達經過

昭和十八年七月一日

一、昭和十八年七月一日午後四時半宇都宮部長（小瀧司政官ヲ帶同）ハ綜合病院「ラウレル」病室ニテ比島獨立準備委員會ニ對シ別紙甲號ノ趣旨ヲ現地軍ノ名ニ於テ口頭示達シ次イテ右示達ノ説明トシテ別紙乙號ノ趣旨ヲ述ベタ

リ(示達ハ覺書ノ形式ニテ委員會書記長ニ手交シ置ケリ)準備委員會側出席者ハ委員長「ラウレル」副委員長「アバンセニヤ」及「アキノ」並ニ書記長ノ四名

二、右示達ニ達シ「ラウレル」ハ謝辭ヲ述ヘタル後約十五分ニ亘リ左ノ趣旨ヲ語レリ

新憲法ハ刻下ノ非常時ニ於テ施行セラルモノナルカ故ニ非常時ニ適應スル様執行權中心主義ヲ執ル必要アルコトハ御示達ノ通リナリ又民權ヲ不當ニ尊重スルヲ避ケ例ヘバ舊憲法中ノ自由權ノ規定(自分ノ起草)ノ如キモ大修正シ日本ノ如ク「法律ノ認ムル範圍内ニ於ケル自由」ニ限定スルモ一案ナルヘシト思考スルモ如何ニ非常時ト雖モ最少限度ノ民權擁護ハ必要ナルヘシ(例、信教ノ自由)又國民ヲシテ將來ニ對シ希望ヲ抱カ

シメ今次ノ獨立ガ日本ノ欺瞞政策ニ基クモノニ非サルコトヲ知ラシメムガ爲ニハ天然資源ノ規定ニ付テモ予メ日本軍ト話合ノ上將來比島人發展ノ余地ヲ殘ス様取極メタキモノナリ、此問題ハ米國トノ間ニモ相當困難アリシ案件ナルガ經濟的自立ノ余地ナキガ如キ條件ニテ獨立セバ右ハ眞ノ獨立ニ非ス、此點日本側ノ「ステ

ツマンシブ」ニ依リセメテ戰後ニ希望ヲモタシムル様取極メタシト思考ス

斯ル觀點ヨリ委員中ニハ今恒久的憲法ニ論議ヲ重ヌルモ時間ノ徒費ニテ實益無ク寧ロ舊憲法中新事態ニ即セタル規定ヲ除キ差支ナキモノハナルヘク之ヲ生カシ曾テ國民ノ承認セル條項ヲ織込ミタル新憲法ヲ採用シ民心ノ把握ニ努ムルト同時ニ刻下ノ戰時非常事態ニ適用サルヘキ過渡的規定ヲ設ケ之ヲ實際上活用シテ恒久的憲法ハ實質上戰爭中ハ殆ト適用ナキモノトシタキ意向強キ處此方法ハ自分モ豫テ考へ來レル所ニテ之ニ對スル軍ノ御意向伺度シ(或ハ今後審議ノ參考ノ爲舊憲法中軍ノ特ニ反對セラルル條項ハ如何ナルモノカヲ知り得レハ幸ナリ)

三、「アキノ」ハ「ラウレル」ノ意向ヲ側面ヨリ支持スル趣旨ノ發言ヲナシ抑々新憲法起草ニ當ツテハ只今御示達ノ點ヲ辨ヘ置クハ勿論ナルガ更ニ委員連ノ常ニ留意スヘキハ(一)新政府ヲシテ現事態下ニ於テ如何ニシテ最モ圓滑ニ國政運營ヲナサシメ得ルヤ及(二)如何ニシテ最モ多數比島民ヲシテ新憲法及新政府ニ悅服追從セシメ得ルヤノ一點

ニ在リ此ノ二點ヲ考慮シ且日本ノ指定スル憲法ニヨリ内容虚無ノ獨立ヲ得ントシアルガ如キ流説坊間ニ行ハレアル事實ニ鑑ミナルベク多數民衆ヲシテ獨立ヲ謳歌セシムル様先ツ形式的ニハ出來得ル限り舊憲法ノ條項ヲ採用セル憲法ヲ起草シ之ニ附屬書(appendix)トシテ過渡的規定ヲ設ケ實際政務ノ運行ニ支障ナカラシメタキコトヲ強調セリ

四、兩人共頻リニ右ニ對スル軍側ノ意向ヲ承知シタキ面持ヲ示シ居レルニ付宇都宮部長ハ「全然自分限リノ私見ナリ」

ト前置シタル後過渡的規定ニ關スル貴見ハ誠ニ尤モナルガ恒久的規定ニ付舊憲法ノ一部ヲ採用スルニ於テハ戰後愈々實施スル時ニ至リ共榮圈ノ一環タル比島ノ地位ト矛盾セル點等ニ付ゴタゴタノ起ルガ如キ惧ナキヤヲ懸念ストテ反對的意向ヲ表明セル處「ラウレル」「アキノ」交々發言シ今次獨立ノ大前提ニハ共榮圈ノ構想アリ勿論斯ル獨立ノ根本原則ニ反スルガ如キ規定ヲ存セサルヘキハ言フ迄モナク又戰後ニ至レバ何ノ途各般ノ情勢變化アルヘク之ニ適應スル様憲法修正ノ必要アルハ當然ニシテ斯ル修正ハ決シテ難事ニ非ス此際大局的見地ヨリ「比島人ノ

作レル比島憲法」ト云フカ如キ氣分的滿足ヲ民衆ニ與へ民心ヲ新政府ニ惹キ付ケ置ク様日本側ニ於テモ御考慮願度シトノ趣旨ヲ繰返ヘセリ

五、會見一時間、「アバンセニヤ」ハ何等發言セズ「アキノ」モ終リニ至リ發言セルニスギズンテ宇都宮部長ノ示達及其説明ノ他ハ「ラウレル」ガ主トシテ委員長タル自己ノ所信ヲ述ヘタルニ止マレルガ、會見ノ際ノ空氣ヨリ察スレバ我方ノ示達及説明中特ニ先方ノ注意ヲ惹ケルハ舊憲法ノ條項採用方に對スル我方ノ否定的見解ノ披瀝ナル處右ニ付テハ委員連ノ意向略一致シ居ルカ如ク結局比際日本式臭味多キ比島人ニ目新シキ憲法ヲ作ル時ハ委員會ガ全ク日本ノ傀儡ナリトノ感觸ヲ一般民(特ニ一般民ヲ動カス力アル知識階級)ニ與ヘ新政府ノ活動モ著シク阻害セラルベキヲ惧レ居ルモノノ如シ尙比島ニ於ケル日比人ノ經濟的活動ノ平等權ハ比島人ヲ永遠ニ隸屬的地位ニ置クモノナルカ故ニ軍事外交ハ已ムヲ得ストスルモ經濟的ニハ將來自主的立法權ヲ得タシトノ「ラウレル」從來ノ主張ハ今後モ反復セラルヘク之ヲ比際無下ニ却リベキヤ又ハ戰時中取敢ヘズ日本人ニ平等權ヲ與ヘシメ爾後ノコ

トニ付テハ改メテ協議決定スルノ余地アルモノタラシム  
ヘキヤ大ニ我方トシテモ政治的考慮ヲ要スヘシト存セラ  
ル。

ト

國民參政ノ範圍及形態ニ付テハ行政ノ敏活ナル運用ヲ  
阻害セザル如ク考慮ヲ拂フコト

3.殊ニ戰時中ハ行政權強化ニ付特別ノ考慮ヲ拂フコト

#### 別紙甲號

##### 比島獨立準備委員會ニ對スル口頭示達

比島軍政監部宇都宮總務部長ハ昭和十八年七月二日現地軍  
ノ代表トシテ比島獨立準備委員會ニ對シ其ノ委員長、第一  
第二副委員長及書記長ヲ通ジ左ノ如ク口頭示達ヲ爲シタリ。  
一、準備委員會ハ先づ憲法起草ニ着手シ成ル可ク速カニ其ノ  
草案作成ヲ完了スベシ

二、新比島ハ大東亞共榮圈ノ一環トシテ道義ニ基キ世界新秩  
序ノ創造ニ寄與スベキモノナルコトヲ指導理念トシテ憲  
法ヲ起草スベシ

三、憲法ノ起草ニ當リテハ左ノ事項ニ特ニ留意スベシ

- 1.規定條項ハ國家ノ組織及運用ニ關スル基本的事項ニ限  
定スルコト
- 2.國家權力ノ行使ニ彈力性ヲ持タシメ延ヒテ強力簡素ナ  
ル國政運用ヲ期シ得ル如キ國家政治機構ヲ案出スルコ

#### 別紙乙號

##### 獨立準備委員會ニ對スル口頭示達ニ伴フ說明

比島ニ獨立ヲ與ヘルト言フコトハ實ニ萬民ヲシテ各々其ノ  
所ヲ得シムルト言フ我ガ八紘一字ノ理想ニ出ルモノデアリ  
マス從ソテ我々ハ此ノ國ヲ獨立國タラシムルニ付テ如何ナ  
ル法式ヲ採用スルカラ我々ノ側ヨリ指圖ガマシイコトヲ言  
ツタリ干涉シタリスル意思ハ毛頭ナイノデアリマシテ坊間  
ニ行ハレテ居ル比島ニ獨立ヲ與フルニ付日本側ハ既ニ憲法  
草案ヲ用意シテ居ルンダト言フ様ナトンデモナイ「デマ」  
モ特ニ之ヲ打消ス必要モ認メナイノデアリマス唯我々ハ戰  
前トハ全ク異ツタ新事態ニ應ジテ新比島政府ガ最モ巧ク運  
營セラルルコトヲ眞ニ希望スルガ故ニ前述數點ニ付テ特ニ  
諸君ノ注意ヲ喚起シタ次第アリマス

我々ハ軍政實施以來度々繰返シテ我々ノ希望ハ亞細亞民族

ヲ米英ノ桎梏カラ解放シテ我々ノ協力共助ニ依ツテ亞細亞人ノ亞細亞ヲ建設スルニアル旨ヲ申シテ參リマシタ此ノ點

カラ見テ我々ハ新比島ガ物心兩面ニ於テ米國依存ヲ脱却シテ東亞共榮圈ノ一環トシテ完全ナル獨立國トシテ成長スルコトヲ希望スルモノデアリマス

此ノコトヲ胸ニ置イテ諸君ハ比島民ノ理想ヲ包含スルト同時ニ新シイ事態ニ適合スル様ナ新憲法ヲ作製セラレタイノデアリマス

斯ク言ヘバトテ私ハ米國ノ影響下ニ採擇セラレタ舊憲法ノ條章ハ凡テ一律ニ不可デアルト言フモノノデハアリマセン舊憲法ハ新憲法研究上ノ重要ナル材料デアリマセウシ又其ノ幾部ハ新憲法ニ包攝セラルルコトモアラウト思ヒマス  
併シ乍ラ私ハ新事態ハ新憲法ヲ要求スルト言フコトヲ申上ゲ又私ノオ示シシタ指導方針ヲ良ク頭ニ置イテ最善ノ憲法ヲ作ラルル様折角努力セラレムコトヲ切望シテ熄ミマセン

#### (付記四)

##### 比島新憲法ニ關スル説明

比島新憲法ニ關シ八月二十四日將校集合所ニ於テ比島軍政

監部總務部長宇都宮大佐及司波司政官ヨリ聽取セル所左ノ通

##### 一、指導經過

比島憲法起草ニ關スル現地軍ノ指導ハ中央ノ指示ニ從ヒ努メテ比島側ノ一創意ヲ尊重スルノ方針ヲ採レリ即チ去ル七月二日比島獨立指導要綱ヲ入手スルヤ同日宇都宮總務部長ヨリ「ラウレル」ニ對シ新比島ノ建國ノ理念確立ノ必要及國家政治機構ノ強力簡素化ノ必要ニ付我方ノ要望ヲ傳ヘタル以外ハ努メテ比島側ニ一任スルノ態度ヲ以テ處理シ來レリ

比島側ニ於テハ憲法起草委員會ニ行政、司法、立法及雜件(miscellaneous items)ノ四分科會ヲ設ケ七月末四分科會ヨリ夫々「ラウレル」ニ對シ報告書ヲ提出シ「ラウレル」ハ更ニ彼自身ノ個人的意見ヲ加ヘ「ラウレル」試案ナルモノヲ作製シテ八月十日起草分科會(Drafting sub-committee 比島要人ヲモノラス)ニ諮問セリ。同分科會ハ三日間ニ亘り審議ヲ重ね若干ノ修正ヲ加ヘテ本草案ヲ作製セリ

レル」ハ個人的ニハ行政權ヲ努メテ強化シ新比島ニ東亞性格ヲ有セシムベシトノ意見ヲ有シ「ラウレル」試案ナルモノハ寧ロ日本憲法ニ近キガ如キモノナリシガ起草分

科會ノ各委員即チ比島要人連比島新政府ガ日本ノ傀儡ナリトノ非難ヲ受クルニ至レバ民心ヲ把握スルニ至ラザルベク從ツテ民心把握ノ爲ニハ努メテ舊憲法ニ近キ憲法ヲ起草スルコト然ルベシトノ意見ニシテ結局出來上リタル本草案ハ「ラウレル」ノ如キ考ヨリ見レバ一種ノ妥協案ノ如キモノトナリ

現地軍ハ起草委員會案<sup>(ママ)</sup>開催中モ隨時内面指導ヲ加ヘ結局本案ニ對シ中央ノ承認ヲ留保シ現地軍トシテハ同意ヲ表セリ

二、舊憲法トノ關係  
新憲法ハ素ヨリ舊憲法ヲ修正スルモノニハ非スシテ新比島ノ憲法トシテ起草決定セラルモノナルカ、比島人心ノ猶米國側ニ向ヒ居ル現狀ニ鑑ミ新憲法ノ内容ハ舊憲法中現實ノ事態ニ即セサル部分ヲ修正シ以テ曾テ人民ノ同意ヲ經タル舊憲法ト外觀的形式的ノ近似性ヲ保タシムルコトトセルモノナリ此ノ點ハ比島要人大部分意見ニシテ

現地軍モ同感ナルヲ以テ「ラウレル」試案ノ行キ過キノ如キハ却テ軍ニ於テ是正セシメタル次第ナリ

### 三、天然資源ノ問題

舊憲法第十三條ニ天然資源ハ現在ノ比島住民及其ノ子孫ニ保留スル規定(第一項)及「ケソン」ノ社會主義論ニ基ク大地主制限ノ規定(第二項以下)アリ第一項ハ既得權ハ除外シ新ナル利權ヲ外國人外國法人(資本六〇%比島人所有以外ノ法人)ニ禁止スル規定ニシテ或意味ニ於テハ米國カ其ノ既得權ヲ留保シツツ比島獨立後ノ日本ノ進出ヲ阻止セントセル規定ニシテ第二項以下ト共ニ「タバオ」日本人土地問題ヲ生シタル規定ナリ

然レトモ右第十三條ハ比島人々比島獨立ノ生命トモ考ヘ居ルモノニシテ又「日本人ハ獨立ヲ與ヘテ資源ヲ壟斷セントスルモノニシテ比島獨立ハ日本ノ經濟的謀略ノ爲ノ偽<sup>(歐カ)</sup>瞞ニ過キス」トノ民衆ノ印象及敵側ノ宣傳ヲ封殺スル爲ニハ右第十三條ヲ存置スルヲ要ストノ比島側ノ考ヘナリ

此ノ點ト日本カ戰爭遂行上必要トスル資源ノ開發トノ關係ニ付テハ比側要人ハ日本ノ必要ハ十分諒解シ居リ舊米

國權益ヲ敵產トシテ曰本側カ運營シ居ルモノハ既得權ト  
シテ之ヲ認メ新規ノモノニ付テハ過渡的規定トシテ特例

ヲ認メントスル案ヲ作成セリ

#### 四、新憲法ノ思想的性格

新憲法ハ一見舊憲法ニ極メテ酷似スル形態ヲ採リ居ルモ  
左記ノ點ニ於テ特徵ヲ有ス

(一)前文ニ於テ舊憲法ニハ「正義、自由及民主主義ノ施政」  
云々ノ語アリタルニ對シ新憲法ニハ「平和、自由及道  
義ニ基キ世界新秩序ノ創造」云々ト定メタルコト

(二)全体ノ配列ニ於テ舊憲法ハ「人權ノ宣言」、「市民權」、  
「選舉權」、「立法部」、「行政部」、「司法部」ノ順序ト  
ナリ居タルヲ新憲法ニ於テハ「行政部」、「立法部」、  
「司法部」ノ順ニ改メ且ツ人民ノ義務ヲ強調シタルコ  
ト

(三)行政權ノ立法權ニ對スル強化ヲ圖リタルコト  
五、逐條說明



796 昭和18年9月29日 大本營政府連絡會議決定

#### 「東條内閣總理大臣ヨリ比島獨立準備委員長

#### 一行ニ對スル示達」

東條内閣總理大臣ヨリ比島獨立準備委員長一行ニ對ス  
ル示達

茲ニ比島獨立準備委員長御一行ヲ迎ヘ比島獨立ニ關スル帝  
國ノ意圖ヲ披瀝スルヲ得ルハ本大臣ノ最モ欣快トスル所ナ  
リ

抑々萬邦ヲシテ各々其ノ所ヲ得シメ兆民ヲシテ悉ク其ノ堵  
ニ安ンセシムルハ帝國不動ノ國是ニシテ今般比島民衆多年  
ノ宿望タル新比島ノ獨立ヲ認ムルモノ亦此ノ國是ニ基クナ  
リ而シテ新比島ノ獨立ニ關シ帝國ノ庶幾スル所ハ既ニ本大  
臣自ラ之ヲ述ヘ又現地軍司令官ヲ通シ開陳セシ所ナリト雖  
今ヤ獨立ノ準備將ニ全カラントスルニ際シ更メテ獨立ニ關  
スル帝國ノ所信ヲ闡明セントス

#### 第一 建國ノ精神ニ就テ

新比島國ノ建設ニ當リ帝國ノ最モ關心ヲ有スルハ其ノ建  
國ノ精神トス、新比島國ハ完全ナル獨立國タルヘク其ノ

建國ノ精神ハ固ヨリ比島自体ニ於テ決定スヘキモノナリ

ト雖帝國ハ新比島國カ大東亞共榮圏ノ一環タル道義ニ基

ク新國家ニシテ世界新秩序ノ創造ニ寄與スルモノタルヘ  
キヲ確信ス

## 第二 國家ノ構成ニ就テ

新比島國ノ領域ハ舊米領全比島ナルコトヲ茲ニ明言ス

尙帝國トシテハ政治機構及之カ運用ヲ努メテ強力簡素ナ

ラシムルコトヲ適當ナリト思考シアリ

## 第三 日比基本關係ニ就テ

帝國ハ新比島國カ其ノ創意ト責任トニ於テ速ニ獨立國ノ  
實ヲ具フルコトヲ冀念シ全幅ノ支援ヲ爲スヘシ新比島國  
亦大東亞共榮圏ノ一環トシテ政治、軍事、外交、經濟等  
ノ各般ニ於テ將來ニ亘リ帝國ト密ニ提携協力スヘキコト  
ヲ期待ス

## 第四 戰爭協力ニ就テ

帝國ハ新比島國カ成ルヘク速ナル時機ニ於テ帝國ト緊密  
ナル協同ノ下ニ比島防衛ノ完璧ヲ期スル爲米英兩國ニ對  
シ宣戰スルニ至ランコトヲ望ムモノナルカ參戰前ト雖速  
ニ戰時ニ即應スル各般ノ態勢ヲ整備確立シ以テ帝國ト緊

密一体戰爭完遂ニ邁進センコトヲ期待スルモノナリ

## 第五 軍事ニ就テ

大東亞戰爭完遂ノ爲新比島國ハ軍事上帝國ト完全ニ協力  
シ帝國軍隊ニ對シ一切ノ便宜ヲ供與スルト共ニ比島防衛  
ノ爲比島國軍ノ用兵作戰及比島警察隊ノ軍事行動ニ關シ  
テハ在比帝國陸海軍最高指揮官ノ指揮ニ服セシメンコト  
ヲ望ム

## 第六 經濟ニ就テ

新比島國ノ經濟ハ大東亞經濟建設ノ一環トシテ其ノ主權  
ノ下ニ於テ公正濬刺タル活動ニ依リ之カ振興ヲ期セラレ  
度帝國ハ之ニ所要ノ援助ヲ與フルノ用意ヲ有ス  
而シテ戰爭遂行上及大東亞建設上必要ナルモノニ付テハ  
十分帝國ノ施策ニ順應スルノ措置ヲ講セラレンコトヲ切  
望ス

惟フニ一國ノ創成ハ容易ノ業ニアラス況ンヤ前古未會有ノ  
大戰爭ノ眞只中ニ於ケル新比島國ノ生成發展ハ蓋シ尋常ナ  
ラサルヘシト雖比島一千八百萬全民衆ノ燃ユルカ如キ愛國  
ノ熱意ハ必スヤ之ヲ玉成スヘキヲ確信スルモノナリ  
新比島國ノ柱石タルヘキ貴下等ハ宜シク帝國ノ意圖スル所

ヲ体シ有ユル障礙ヲ克復シ以テ建國ノ偉業ヲ完成シ相携ヘテ大東亞戰爭ヲ完遂シ以テ道義ニ基ク大東亞ノ新秩序建設ニ邁進セラレンコトヲ切望シテ已マス

編注

本示達の内容は、昭和十八年十月二日に東条首相より来日したラウレル比島獨立準備委員会委員長らに伝えられた。



797

昭和18年10月5日 大本營政府連絡會議了解

「日本國「フィリピン」國間同盟條約案」

付記一 昭和十八年十月五日、大本營政府連絡會議用

資料

「日本國「フィリピン」國間同盟條約案説明」

二 昭和十八年十月一日付、條約局第一課作成

日比同盟條約に関する打合せ内容

三 昭和十八年十月

日比同盟條約締結交渉に関する陸軍往復電報

● 日本国「フィリピン」國間同盟條約案

大日本帝國天皇陛下及「フィリピン」共和國大統領ハ  
日本國ガ「フィリピン」國ヲ獨立國家トシテ承認シタルニ  
因リ

兩國ハ相互ニ善隣トシテ其ノ自主獨立ヲ尊重シツツ緊密ニ  
協力シテ道義ニ基ク大東亞ヲ建設シ以テ世界全般ノ平和ニ  
貢獻センコトヲ期シ確乎不動ノ決意ヲ以テ之ガ障礙タル一  
切ノ禍根ヲ芟除センコトヲ欲シ之ガ爲同盟條約ヲ締結スル  
コトニ決シ左ノ如ク各其ノ全權委員ヲ任命セリ

大日本帝國天皇陛下

「フィリピン」共和國大統領

右各全權委員ハ互ニ其ノ全權委任狀ヲ示シ之ガ良好妥當ナ  
ルヲ認メタル後左ノ諸條ヲ協定セリ

第一條

締約國間ニハ相互ニ其ノ主權及領土ノ尊重ノ基礎ニ於テ永  
久ニ善隣友好ノ關係アルベシ

第二條

締約國ハ大東亞戰爭完遂ノ爲政治上、經濟上及軍事上緊密  
ナル協力ヲ爲スベシ

第三條

締約國ハ大東亞ノ建設ノ爲相互ニ緊密ニ協力スベシ

#### 第四條

本條約ノ實施ノ爲必要ナル細目ハ締約國當該官憲間ニ協議決定セラルベシ

#### 第五條

本條約ハ締約國ニ於テ其ノ批准ヲ了シタル日ヨリ實施セラルベシ

#### 第六條

本條約ハ成ルベク速ニ批准セラルベシ批准書ノ交換ハマニラニ於テ成ルベク速ニ行ハルベシ

右證據トシテ各全權委員ハ本條約ニ署名調印セリ

昭和年月日即チ年月日ニ於テ本書二通ヲ作成ス

#### (付記一)

日本國「フィリピン」國間同盟條約案說明

十八年十月五日

大本營政府連絡會議

#### 一、全般ニ付テ

曩ニ大本營政府連絡會議決定ノ比島獨立指導要綱ニ基キ

獨立ト共ニ締結スヘキ日比間條約ハ必要ノ最少限ヲ規定

スル簡潔ナルモノタラシムルコトトセリ而シテ其ノ内容

トシテハ(1)帝國ノ「フィリピン」國獨立ノ承認意思ヲ表

示スルコト(2)日比間ノ基本關係トシテ(1)相互ニ主權及領

土ノ尊重ノ基礎ニ於ケル善隣友好ノ原則及(3)大東亞建設

ニ關スル協力ヲ規定スルコト(3)大東亞戰爭完遂ノ爲メノ

ノ便宜ヲ供與スベク又日本國及「フィリピン」國ハ「フィリピン」國ノ防衛ニ付相互ニ緊密ニ協力スベシ

右證據トシテ下名ハ各本國政府ヨリ正當ノ委任ヲ受ケ本了解事項ニ署名セリ

昭和年月日即チ年月日ニ於テ本書二通ヲ作成ス

#### 四 占領地への独立付与問題

各般ニ亘ル緊密協力ヲ規定スルコトトシ更ニ大東亞各國

トノ關係ヲモ考慮シ(4)本條約ハ之ヲ日比間同盟條約タラ  
シムルコトトセリ

尙本條約ハ「フィリピン」國側ニ於テ署名後議會ノ批准  
ヲ要スル關係上批准條項付ノ條約ノ形式ヲ執レリ

##### 三、細部ニ付テ

###### (一) 本條約

###### (1) 前文

第一項ハ日緬同盟條約ニ倣ヒ帝國ノ「フィリピン」

國承認ノ旨ヲ明記シ

第二項以下ハ其ノ趣旨ニ於テ日緬同盟條約ト同様ナ

ルモ修辭ニ於テハ寧口日華同盟條約案ニ倣ヘリ

###### (2) 第一條

本條項ハ日緬同盟條約ニハ之ヲ缺キ居ルモ(尤モ前  
文ニ其ノ趣旨カ記載サレ居ル次第ナリ)「フィリビ  
ン」國ノ事情等ヨリ見テ之ヲ獨立條項トシテ規定ス  
ルコト適當ト認メタリ

尙日華同盟條約案ニハ第一條ニ於テ同様ノ趣旨ヲ規  
定シ居レリ

###### (3) 第二條

本條項ハ日緬同盟條約第一條ト同趣旨ナリ  
但シ「フィリピン」國側ノ内政關係ヨリシテ特ニ  
「有ユル協力」ナル字句ヲ避ケ且「軍事上」ノ字句

ヲ「政治上及經濟上」ノ後ニ置キ換ヘタリ(右配置  
ノ順序ハ日泰同盟條約ト同様)本條項ニ關シテハ後  
記ノ如ク附屬了解事項有リ

本條項ト附屬了解事項ト相合シテ果シテ同盟約款ノ  
實體ヲ爲スヤニ付テハ從來ノ觀念ヨリスレハ稍疑問  
ナキニ非サルモ大東亞ニ於ケル新ナル同盟條約ノ內  
容及形式トシテ容認セラルヘキモノト認ム

###### (4) 第二條

日緬同盟條約第二條ト同趣旨ナリ、唯大東亞ノ建設  
ニ關スル説明的字句ヲ省略セリ(日華同盟條約案第  
二條ヨリ「安定確保」及「有ユル援助」ヲ削除セル  
モノニ等シ)

###### (5) 第四條ハ慣例字句ニシテ第五條ハ效力發生ニ關シ第 六條ハ批准交換ニ關シ規定ス

###### (二) 附屬了解事項

本了解事項ハ本條約ト一體ヲ爲スモノニシテ且發表セ

ラルルモノトス其ノ内容ハ本條約第二條ノ大東亞戰爭

完遂ノ爲メノ日比間ノ軍事上ノ協力ヲ説明スルモノナ

リ而シテ本了解事項設置ノ理由ハ専ラ「フイリピン」

國側内政上ノ事情ニ在リ即チ先方ハ大東亞戰爭ニ關ス

ル協力ニ付テハ之ヲ吝ムモノニ非サルモ目下ノ治安情

況ノ關係上並民心把握ノ必要上參戰ハ暫ク待タレ度旨

並軍事的協力ハ日本軍ノ軍事行動ニ對スル便宜供與ト

比島ノ防衛ニ限り度外征ニ參加スル如キコトハ無キ様

致度旨ノ強キ希望ニシテ我方トシテモ此ノ點ヲ諒トセ

サルヘカラス而シテ既ニ總理「ラウレル」會談ニ於テ

モ連絡會議ノ決定ヲ經テ比島參戰ノ理由ハ「帝國ト緊

密ナル協同ノ下ニ比島防衛ノ完璧ヲ期スル」ニ在ル旨

明示セル次第ナリ

仍テ先方ノ希望ニ應シ右ノ趣旨ヲ第二條ノ説明トシテ

附屬了解事項トシテ規定シ之ヲ公表スルコト適當ト認

メタル次第ナリ(本了解事項存置ノ結果果シテ同盟條

約ノ實體ヲ具フルモノト認メ得ヘキヤノ點ニ付テハ前

述ノ通)

(付記二)

日比同盟條約ニ關スル打合セノ件

一八、一〇、二、條一

日 時 昭和十八年十月一日午後六時十七時半

場 所 大東亞迎賓館

出席者 村田比島軍最高顧問

和智參謀長

秋山司政官

松平條約局第一課長 須山事務官

陸軍省軍務局軍務課 高橋中佐 白井少佐

一、先ツ村田顧問、和智參謀長等ノ來ル前ニ高橋中佐、松平

第一課長間ノ打合セ左ノ通

高橋中佐ヨリ松平課長ニ對シ適當ナル案文ヲ得ルコト

仲々困難ナル處如何ナル案ヲ村田顧問及和智參謀長ニ

提出スベキヤヲ問フ

松平課長ヨリ

(一) 本日午前將校集會所ニテノ陸軍提出ノ研究案(別紙一)

ニ付十分ノ検討ヲ加ヘタル處同案ハ第三條ヲ以テ第

二條ノ軍事的援助ヲ骨抜キトスルモノナルヲ以テ本  
案ハ之ヲ同盟條約ト稱シ得ズ仍テ第三條ヲ了解事項  
トナシ且差當リノ字句ヲ插入セル案(別紙三)ヲ提出  
スルコト一案ナリ

(二)日華同盟條約案ニ文字上ノ修正ヲ加ヘテ以テ日比間  
條約トスル事二案ナル旨ヲ答フ

右ニ對シ高橋中佐同意ス

二、村田顧問、和智參謀長、秋田氏及白井少佐入り來ル

(一)松平課長ヨリ現地軍案(別紙三)ハ保障條約ニシテ同  
盟條約ニアラザル旨説明シ大東亞諸國皆同盟條約ヲ  
結ビタルトキ日比條約ノミ保障條約トスルコトハ不  
可ナルヲ以テ少クトモ之ニハ依リ得ザルコトニ意見  
一致ス

(二)了解事項付ノ案(別紙二)ニ付高橋中佐ヨリ説明ス  
和智參謀長ヨリ本案ハ軍事的援助ノ目標ヲ條約案中  
ニ明記スルモノナルヲ以テ左ノ理由ニ依リ不可ナル  
旨ヲ述ブ  
「ラウレル」ハ大統領タルベキモノニ選舉セラレ直  
後日本ニ呼バレテ來リタリ日本ト如何ナル約束ヲ結

バシメラレ歸り來ルヤハ「ラウレル」ノ行動ヲ批判  
的ニ見ントスル比島人ノ注視スル所ニシテ若シ日本  
ニ對スル強キ軍事的相互援助條約ヲ約セシメンカ人  
心「ラウレル」ヨリ離反シ比島人ハ「ラウレル」政  
府ニ叛キ都市周邊ノ「ゲリラ」ニ投ジ其ノ勢益々猖  
獗トナルベク比島人心ノ收攬ハ全ク不可能トナル惧  
アリ現在打ツベキ手ハ「ラウレル」ヲシテ比島人心  
ヲ收攬セシメ政府ノ基礎ヲ固ムルニアリ其ノ後機ヲ  
見テ(特ニ敵機ノ空爆アラバ容易ニ)參戰セシメ得ベ  
シ要スルニ人心ノ離レタル政府ヲ盛リ立ツルモ何等  
ノ益ナシ此ノ際比島人心ニ應ゼザル條約ヲ締結セシ  
メンカ比島人ハ山ニ入りテ「ゲリラ」トナルベシ  
尙本案ニ對シテハ比島參戰後了解事項ヲ廢棄セザル  
ベカラザル所ニ面白カラヌ所アリトノ批評アリタル後  
本案ニハ現地トシテハ反對ナル旨ヲ述ブ  
(三)日華同盟案ニ付高橋中佐ヨリ説明アリタル後  
松平課長ヨリ條約局案(別紙四)ヲ提出ス  
村田顧問和智參謀長一讀シテ之ニ贊成ノ色アリ松平  
課長ヨリ左ノ趣旨ヲ説明ス

本案ハ大東亞ノ安定確保ノ爲相互ニ緊密ニ協力シ有ラユル援助ヲ爲スコトヲ約スルモノナルガ安定確保ナル意味ハ頗ル彈力性アリ條約義務ノ内容トシテハ

兩國間ノ協議ニ依リ如何様ニモ運用シ得ル次第ニシテ或意味ニテハ共同防衛ヨリモ廣シ然レドモ他方共同防衛、軍事協力、戦争參加等ヲ其ノ言葉ヲ以テ約シタルニハ非ルヲ以テ本條約ヨリ受クル印象ハ極メテ溫和ナリ（秋山司政官ノ質問ニ對シ）第四條ニ依リ本條約ノ實施ニ必要ナル細目ハ締約國官憲間ニ協議決定セラルベキコトトナリ居ルヲ以テ我方が一方的ニ軍事的相互援助ノ態様ハ決定シ得ザルモノナリ本條項ハ今次ノ如キ日比關係ニ付最モ無難ナル條項ト考フル旨ヲ述ブ

村田顧問ハ種々條文ヲ熟讀ノ後本案ハ一見強力ナル協力ヲ約サザル如キモ實ハ仲々廣汎ナル義務ヲ負フモノト認メラル本案ニ了解事項ヲ付スレバ可ナリト考フル旨ヲ述ブ

結局村田顧問ヨリ松平課長ニ對シ是非本案ニテ中央ノ議ヲ纏ムル様願フ旨述ブ

高橋中佐ヨリ能フ限り村田顧問及和智參謀長ノ意嚮ヲ尊重スルモ已ムラ得ザレバ大東亞戰爭完遂ノ文字ヲ前文ニ插入シタル上條約局案ニテ二日（土曜）中ニ軍及外務省側ニテモ上司ノ御意嚮ヲ伺ヒ見ルベキ旨松平課長ヨリ述べ意見ノ一致ヲ見タル上散會セリ

高橋中佐ヨリ本案ニハ大東亞戰爭完遂ノ字句ナシ仍テ前文中ニ之ヲ插入シ之ニ依リ統帥方面ノ贊同ヲ得ベキ旨ヲ述ブ

松平課長高橋中佐ヨリ夫ニテハ到底政府統帥部ノ贊同ヲ得ザルベキ旨ヲ説明ス

（欄外記入）

ルヲ認メタル後左ノ諸條ヲ協定セリ

別紙一、

日本國「フイリピン」國間同盟條約研究案

日本國「フイリピン」國間同盟條約

大日本帝國天皇陛下及

「フイリピン」共和國大統領ハ

日本國カ「フイリピン」國ヲ獨立國家トシテ承認シタルニ  
因リ

兩國ハ相互ニ善隣トシテ其ノ自主獨立ヲ尊重シツツ緊密ニ  
協力シテ道義ニ基ク大東亞ヲ建設シ以テ世界全般ノ平和ニ  
貢獻ゼンコトヲ期シ

確乎不動ノ決意ヲ以テ之カ障害タル一切ノ禍根ヲ芟除ゼン

コトヲ欲シ

之カ爲同盟條約ヲ締結スルコトニ決シ左ノ如ク各其ノ全權

委員ヲ任命セリ

大日本帝國天皇陛下

「フイリピン」共和國大統領

右各全權委員ハ互ニ其ノ全權委員狀ヲ示シ之カ良好妥當ナ  
(注カ)

## 第一條

日本國及「フイリピン」國間ニハ相互ニ其ノ主權及領土ノ  
尊重ノ基礎ニ於テ永久ニ善隣友好ノ關係アルヘシ

## 第二條

日本國及「フイリピン」國ハ大東亞戰爭完遂ノ爲政治上、  
軍事上及經濟上有ユル(緊密ナル)協力ヲ爲スヘシ

## 第三條(此ノ趣旨ニテ修文ス)

前條ニ規定スル大東亞戰爭完遂ノ爲ノ軍事上ノ協力ノ主タ  
ル様態ハ左ノ通リナルヘシ

「フイリピン」國ハ日本國ノ爲スヘキ軍事行動ノ爲一切ノ  
便宜ヲ供與スヘク又日本國及「フイリピン」國ハ「フイリ  
ピン」ノ防衛ニ付キ相互ニ緊密ニ協力スヘシ

## 第四條

日本國及「フイリピン」國ハ大東亞ノ建設ノ爲相互ニ緊密  
ニ協力スヘシ

## 第五條

本條約ノ實施ノ爲必要ナル細目ハ兩國當該官憲間ニ協議決

定セラルヘシ

第六條

本條約ハ批准セラルヘク其ノ批准書ハ成ル可ク速ニ  
於テ交換セラルヘシ

本協定ハ批准書交換ノ日ヨリ之ヲ實施スヘシ

右證據トシテ各全權委員ハ本條約ニ署名調印セリ

別紙一

日本國「フィリピン」國間同盟條約

日本國「フィリピン」國間同盟條約

大日本帝國天皇陛下及「フィリピン」共和國大統領ハ

日本國ガ「フィリピン」國ヲ獨立國家トシテ承認シタルニ

因リ

兩國ハ相互ニ善隣トシテ其ノ自主獨立ヲ尊重シツツ緊密ニ

協力シテ道義ニ基ク大東亞ヲ建設シ以テ世界全般ノ平和ニ

貢獻センコトヲ期シ確乎不動ノ決意ヲ以テ之ガ障害タル一

切ノ禍根ヲ芟除センコトヲ欲シ之ガ爲同盟條約ヲ締結スル

コトニ決シ左ノ如ク各其ノ全權委員ヲ任命セリ

大日本帝國天皇陛下

「フィリピン」共和國大統領

右各全權委員ハ互ニ其ノ全權委任狀ヲ示シ之ガ良好妥當ナルヲ認メタル後左ノ諸條ヲ協定セリ

第一條

締約國ハ大東亞戰爭完遂ノ爲軍事上、政治上及經濟上有ラ

ユル協力ヲ爲スベシ

第二條

締約國間ニハ相互ニ其ノ主權及領土ノ尊重ノ基礎ニ於テ永久ニ善隣友好ノ關係アルベシ

第三條

締約國ハ大東亞ノ建設ノ爲相互ニ緊密ニ協力スベシ

第四條

本條約ノ實施ノ爲必要ナル細目ハ締約國當該官憲間ニ協議決定セラルベシ

第五條

本條約ハ締約國ニ於テ其ノ批准ヲ了シタル日ヨリ實施セラルベシ

第六條

本條約ハ成ルベク速ニ批准セラルベシ批准書ノ交換ハ

ニ於テ成ルベク速ニ行ハルベシ

右證據トシテ各全權委員ハ本條約ニ署名調印セリ

昭和年月日即チ年月日ニ於テ本書二通ヲ

作成ス

日本國「フィリピン」國間同盟條約ニ關スル日本國及「フィリピン」國ノ全權委員間了解事項

本日日本國「フィリピン」國間同盟條約ニ署名スルニ當リ兩國全權委員間ニ左ノ了解成立セリ

條約第一條ニ付

本條ニ規定スル大東亞戰爭完遂ノ爲ノ軍事的協力ノ主タル態様ハ差當リ左ノ通トス

「フィリピン」國ハ日本國ノ爲スベキ軍事行動ノ爲一切ノ便宜ヲ供與スベク又日本國及「フィリピン」國ハ「フィリピン」ノ防衛ニ付相互ニ緊密ニ協力スベシ

昭和年月日即チ年月日ニ於テ之ヲ作成ス

別紙三、

#### 四 占領地への独立付与問題

電報寫

昭和一八、九、二八

比島軍政監

次官宛

渡集政電第七二〇號

陸亞密電第四三號ニ關シ

一、御來示ノ條約案ニ示サレアルガ如キ完全協力關係ノ樹立及促進ニ關シテハ現地軍トシテ十分ニ御配慮ヲ謝シツアリト信ズルモ遺憾乍ラ比島現狀ハ右ノ條約内容ヲ其ノ儘實施シ得ル段階ニ達シアラズ

即チ比島ハ緬甸ト事情ヲ恩ニシ比島國民一般ハ上下ヲ問ハズ米國ノ恩ヲ感ジ之ヲ敵視シアラザル現狀ニシテ眞ニ共榮圈内ノ獨立國民タルコトヲ自覺セシメ以テ積極的ニ帝國ノ戰爭目的遂行ニ協力セシムルガ爲ニハ此ノ際無理押ヲセズ名ヲ捨テ實ヲ取リ漸進的ニ全面的協同ヲ爲サシムル様指導スルヲ可ナリト思考ス

然ルニ貴案第一條ハ「各般ニ亘リ有ユル協同」云々トアルヲ以テ比島人ニハ即時參戰其ノ他ヲ想起セシメ折角獨立セシムル民心把握ニ却ツテ弊害ナキヲ保シ難ク殊ニ戰爭ニ直チニ比島ヲシテ參戰セシメ他ノ地域ニ其ノ兵力ヲ利用スルガ如キ意向ナシトセバ貴案第一條ノ如キ條文

ヲ此ノ際直チニ押シ付クルハ如何カト思考セラル大東亞体制ノ確立ハ喫緊要事ナリト雖モ之ガ爲ニ現地ノ事情ニ

副ハザル措置ニ出ズルニ於テハ却ツテ逆效果發生ノ虞ナシトセズ就テハ本件ノ重大性ニ鑑ミ取敢ヘズ具申スル次第ナルガ比國內ノ現状ニ關スル詳細ハ參謀長及村田顧問

上京ノ上直接報告スベキニ付其レ迄條約案決定ヲ差控ラルル様御配慮相煩度

二、敍上ノ如キ理由ニ基キ軍事祕密協定案トモ睨合セ慎重熟議ノ結果貴案中ヨリ第一條ヲ削除シ其ノ趣旨ヲ前文中ニ

插入シ且第三條ニ條正ヲ加ヘテ左ノ通現地案ヲ上申スルニ就テハ當地ノ事情モ御監察ノ上篤ト御審議相仰度

大日本帝國天皇陛下及「フイリッピン」共和國大統領ハ

日本國ガ「フイリッピン」國ヲ獨立國家トシテ承認シタルニ因リ兩國ハ相互ニ善隣トシテ其ノ自主獨立ヲ尊重シ

ツツ大東亞戰爭完遂ノ爲緊密ニ協力シ以テ道義ニ基ク大

東亞ヲ建設シ世界全般ノ平和ニ貢獻セントヨ期シ確乎

不動ノ決意ヲ以テ之ガ障碍タル一切ノ禍根ヲ芟除センコトヲ欲シ之ガ爲兩國ハ基本關係ヲ律スル條約ヲ締結スルニ決シ左ノ如ク各其ノ全權委員ヲ任命セリ

以下省略

### 第一條

日本國及「フイリッピン」國ハ相互ニ其ノ主權及領土ノ尊重ノ基礎ニ於テ永久ニ善隣友好ノ關係ニアルベシ

### 第二條

日本國及「フイリッピン」國ハ大東亞ノ建設及「フイリッピン」防衛ノ爲ニ有ユル協力及支援ヲ爲スベシ

### 第三條以下省略

三、條約調印後批准迄ノ無條約期間ノ存在ニ就テハ現地軍トシテ何等ノ支障ヲ感ジアラズ但シ批准ニ要スル期間ガ日、比双方ノ間ニ餘リニ差違アルニ付我ガ方ニ於テハ調印後直チニ御批准ノ下準備ヲ進メ最終手續ノミヲ比島側批准直後ニ行フコトトシ右ノ時日上ノ差異ヲナルベク少ナカラシムルコト然ルベシ尙正式批准書交換前ニ單ニ批准ノ事實ヲ相互ニ通報スルノミニテ效力ヲ發生セシムルヲ可トスルコト渡集政電第七〇四號ノ通

四、軍事協定ヲ基本條約調印ト同時ニ締結スルコト一案ナルモ本協定ノ根據ハ基本條約ニアルヲ以テ其ノ效力發生ハ基本法タル右條約ト同時タルベキヲ以テ無條約期間ヲ救

フ方法トシテハ採用シ得ザルモノト思考ス

大日本帝國天皇陛下

五、本件中央ノ御意向ハ松岡參謀ヨリ詳細聽取セリ

右依命

「フィリピン」共和國大統領  
右各全權委員ハ互ニ其ノ全權委任狀ヲ示シ之ガ良好妥當ナルヲ認メタル後左ノ諸條ヲ協定セリ

別紙四、

昭和十八年九月

日本國「フィリピン」國間同盟條約

條約局第一課

締約國間ニハ相互ニ其ノ主權及領土ノ尊重ノ基礎ニ於テ永久ニ善隣友好ノ關係アルベシ

第二條

締約國ハ大東亞ノ建設及安定確保ノ爲相互ニ緊密ニ協力シ有ラユル援助ヲ爲スベシ

第三條

本條約ノ實施ノ爲必要ナル細目ハ締約國當該官憲間ニ協議決定セラルベシ

第四條

本條約ハ締約國ニ於テ其ノ批准ヲ了シタル日ヨリ實施セラルベシ

第五條

本條約ハ成ルベク速ニ批准セラルベシ批准書ノ交換ハニ於テ成ルベク速ニ行ハルベシ

兩國ハ相互ニ善隣トシテ其ノ自主獨立ヲ尊重シツツ大東亞戰爭完遂ノ爲緊密ニ協力シテ道義ニ基ク大東亞ヲ建設シ以テ世界全般ノ平和ニ貢獻センコトヲ期シ確乎不動ノ決意ヲ以テ之ガ障害タル一切ノ禍根ヲ芟除センコトヲ欲シ之ガ爲

同盟條約ヲ締結スルコトニ決シ左ノ如ク各其ノ全權委員ヲ

任命セリ

1403

右證據トシテ各全權委員ハ本條約ニ署名調印セリ

昭和年月日即チ年月日ニ於テ本書一通ヲ  
作成ス

(欄外記入)

本件ハ其ノ後統帥部方面ノ意見強ク第一案ヲ採用スルコトトナ  
リ三日ノ主務者會議ノ結果第一案採用ニ決定各省ノ議ヲ纏クル  
コトニ意見一致シタルモノナリ

(付記三)  
(編注)

(1)

一、本五日大本營政府連絡會議ニ於テ日比間同盟條約案文別  
電甲(省略)ノ通決定セリ英假譯文及佛文各別電乙(省略)及丙ノ通就テ  
ハ比島側ト御交渉ノ上案文妥結セラレタシ尤モ右交渉ハ

明六日午(マツ)時以後開始セラレタシ

(2) 第三條ヲ削除ス

二、本條約ノ正文ハ佛文トシ度キニ付右御含ミ有度(「ラウ  
レル」ノ同意取付濟ミ)尙案文ハ英文ニテ交渉アリタク  
若シ修正案等アルトキハ英文ニ基キ佛文本文ヲ當方ニ於  
テ作成スベシ(時間ニ余裕ナク貴方ト打合セ不可能ナル

トキハ佛文ハ當方ニ一任アリタシ)

三、調印本書ハ當方ニテ作成ノ上條約局事務官ヲシテ携行セ  
シムベキニ付右御含ミアリタシ尙冒頭別電内ノ佛文ハ大  
東亞省暗號ニ依リ組ニアリ爲念

(2)

電報

昭和一八、一〇、九

一、陸亞機密電第四八號條約案ヲ「ラウレル」ニ示シ原案ノ  
通受諾スル様種々說得ニ努メタルガ「ラウレル」ハ議長  
「アキノ」及獨立後外務大臣タルベキ「レクト」ト協議  
ノ結果左ノ協定ヲ提案ス

右日本側ニ於テ承認アリ度旨懇望セリ

(1) 第二條中ノ「大東亞戰爭完遂ノ爲ニ」ノ字句ヲ「大東  
亞建設ノ爲ニ」ト改ム

(3) 諒解事項冒頭ノ「大東亞戰爭完遂ノ爲ニ」ヲ「大東亞  
建設ノ爲ニ」ト改ム

末尾ノ「比島國ノ防衛ニ付」ヲ「比島國ノ領土保全及  
獨立ヲ防護スル爲「FOR DEFENSE OF THE

(TERRITORIAL<sup>等</sup>)

## TERITORIAL INTEGRITY AND INDEPENDENCE OF

THE PHILIPPINES」ト修正ス

(比島ノ對内關係上「領土保全及獨立」ナル文字ヲ插入スル方有利ナリトノ意見ニ依ル)

「ラウレル」ハ自<sup>二</sup>トシテハ條約ノ精神及實質ニハ何等異議ナク對日全幅的ニ協力ヲ誓フモノナルモ大東亞戰爭完遂ノ如キ字句ハ民衆ヲ刺戟スル虞大ナルニ付出來得ル限り民衆及議會ニ受ケ易キ字句ヲ用ヒ度且大東亞戰爭完遂ハ大東亞建設ノ前提ニシテ「大東亞建設」ナル文字、當然戰爭完遂ヲも意味シ居リ實質上比島側修正案ハ原案ト差異ナシト主張シ居レルカ當軍トシテハ改訂案ヲ採擇スルモ實質的支障ヲ生ゼラル虞ナク又比島側ニ於テモ右修正ニ依リ離反變更ヲ意圖シ居ラザルコト明カニ付此ノ際比島ノ内政事情ニモ鑑ミテ「ラウレル」ノ對内指導力ヲ強化セシメ之ガ我方ニ有利ニ活用スル爲先方修正案ヲ受諾スルコト然ルベキト思考ス

至急返電セラレ度

參謀長

(4)

昭和一八、一〇、一一

(3)

日比間同盟條約文ニ關スル件 昭和一八、一〇、一一

次官ヨリ渡集團參謀長宛電報

渡集政電第八一〇號返

現地ノ事情ハ諒トスルモ極力陸亞機密電第四八號ノ原案ヲ以テ先方ヲ說得セシメラレ度依命

戰爭協力ニ就テハ總理示達ニ明カニシテ「ラウレル」亦諒承セシ所ナリ且ツ「ラウレル」申出ノ修正案ハ大東亞戰爭中ノミナラス戰後ニ於テモ軍事上ノ協力ヲ約シ殊ニ附屬諒解事項ハ戰後ト雖モ日本軍ノ駐兵ヲ認メ之ニ便宜ヲ供與スルコトヲ約スルコトトナリ比島ノ爲ニモ採ラサル所ナルノミナラス條約ノ意味ヲ根本的ニ變更スルモノニシテ同意シ難ク極力原案受諾セシメラレ度

尙條約調印ヲ以テ承認トスル爲十四日ニ締結スルコト致シ度ク從ツテ條約正文ハ十一日ニ當方ヨリ發送ノ要アルニ付至急交渉ノ上回電相成度

次官宛

渡集團參謀長發

陸亞機密電第五二號ニ關シ

一、本十日早速「ラウレル」ト會見シ御來示ノ次第ニ基キ委

曲说得ニ努メタルモ「ラ」ハ比側トシテハ渡集政電第八

一〇號ノ修正ハ條約ノ意義ヲ全然變更スルモノトハ思考

セズ條約ノ精神ハ不動ニシテ而モ民衆ノ反響一層良好ナ

ルベシト思考シアルヲ以テ斯ル修正ヲ提案セル次第ナリ

又之ヲ比側ニ不利ナリトスルハ觀念論ニシテ當面ノ實際

問題トシテハ修正案ヲ以テ有利ナリトナス見解ナルガ故

ニ再考ヲ煩ハシ度但日本側ガ飽ク迄原案ヲ固守セラルル

ニ於テハ調印ヲ拒ムモノニアラザルモ斯くてハ漸次民衆

ヲ參戰迄導カントスル方策ニモ支障ヲ來シ新政府ノ立場

モ頗ル苦境ニ至ルベク延イテハ國內分裂ノ懸念ナシトセ

ズト述べ甚ダ沈痛ナル表情ニ見受ケラレタリ

二、比側ノ戰爭協力ニ關スル態度ニハ何等變更ナク本民衆指

導ノ爲最モ適切ナル文句ヲ使用スルコトニ依リ最大效果

ヲ求メントシアル次第ニシテ要ハ文句表現ノ問題ニ歸著

スルモ比側トシテハ大ナル關心事ナルト比側ノ意見ヲ何

等採擇セサルハ一方的強要ニ依ルモノトノ感ヲ與ヘ民心

把握上重大ナル影響ナシトセザルニ付比現下ノ事情及  
「ラウレル」ノ立場ヲ考慮シ最後ノ政治的判斷ヲ煩ハス  
餘地ナキヤ

三、御來示中ニハ區域事項中「比ノ防衛ニ付」ヲ「比ノ領土

保全及獨立防衛ノ爲ニ」トスル比側修正ニ關シ何等觸レ

居ラザル處比側トシテハ「ラウレル」ノ政治的立場モア

リ當軍トシテハ右ニテ支障ナキモノト思考スルモ中央ノ

御意見至急承リ度

四、「ラウレル」ハ外務大臣ヲ比側調印者トセンカ獨立當日

新ニ議會ヲシテ外務省官制ヲ制定セシメ之ニ基キ外務大

臣ヲ任命スル必要上調印ハ十七日頃トナルベキヲ以テ十

四日調印トセバ「ラウレル」自身調印スルコトトナルベ

キ旨述ベタルガ右ニテ差支ナキヤ御返電ヲ迄フ

右依命

(5)

日比間ノ條約ニ關スル件 昭一八、一〇、一一

次官ヨリ渡集團參謀長宛電報

渡集政電第八二五號返

#### 四 占領地への独立付与問題

一、日比間ヲ律スヘキ條約ヲ同盟條約トスルコト及總理示達

ノ範圍ニ於ケル戰爭協力ヲ明記スルコトハ帝國ノ一貫セ

ル不動ノ方針ニシテ變更スルヲ得ズ

二、了解事項ノ修正意見ハ異存ナシ

(但シ現地ニ於テ佛文「タイプ」ニテ正文作成可能ヲ前

提トス)

三、調印者ヲ「ラウレル」トスルコト異存ナシ

四、調印ハ大使未着ノ場合ヲ除キ十四日之ヲ行フコト

以上方針ニ基キ最後の交渉相成度

依命

(7)

電報

一〇、一一、一二、四〇

次官宛

渡集團參謀長

渡集團參謀長

(6)

電報

昭一八、一〇、一一  
一〇、一一、一六、〇〇發

次官宛

渡集團參謀長

陸亞機密電第五三號ニ關シ

一、貴依命原案ノ修正ハ了解事項中「比國ノ防衛ニ付」ヲ

「比國ノ保全及獨立ヲ防護(衛)スル爲」(pour sauvegarder

l'intégrité territoriale et l'indépendance des Philippines)トス

ルニ止ムルコトトシ「ラウレル」ヲ納得セシメタリ

二、訂正佛蘭西文ハ當方ニテ「タイプ」ス

三、「ラウレル」ハ比島側調印者ニ付其ノ後再考ノ結果外務

大臣就任前ノ「レクト」ヲ全權委員トシタキ旨(肩書ハ

國務大臣)申越セル所當方モ其ノ方ヲ適當ト認ムルニ付

右ニ依リ十四日調印スルコトニ諒解濟

右依命

第一項「協力ノ主タル態様」ノ眞意如何、他ニ何等カノ

二、諒解事項

協力態様アル次第ナリヤ

(8)

日比同盟條約ノ字句説明ノ件

次官、次長ヨリ渡集團參謀長宛(至急、親展)

陸亞機密電五四號(昭和一八、一〇、二三)

渡集政電第八四一號ニ關シテハ左記ニ基キ「ラウレル」ヲ

指導相成度

一、共榮圈ナル文字ハ我國ニ於テハ條約ニ使用セシコトナク

從ソテ今回モ使用セサリシ次第ナリ然レドモ大東亞ノ建

設ナル文句ニハ共榮ヲ基調トスヘキコト勿論ナリ

二、軍事上緊密ナル協力ノ主タル態様ナル文句ハ之ヲ理論的

ニ見レバ多少ノ彈力性ナキニアラザルモ我方トシテハ實

際問題トシテ先般ノ總理示達ノ通り本了解事項ニ規定シ

アル以上ノコトヲ比側ニ強制セントスルモノニ非ズ

三、以上外務、海軍省トモ打合済

(9)

日比間同盟條約ニ關スル件

次官、次長ヨリ渡集團參謀長宛(至急、親展)

陸亞機密電五五號(昭和一八、一〇、二三)

渡集政電第八五二號返

左記ニ基キ十四日調印スルコトニ決定セラル依命

本件外務省ト連絡済

一、條約本文ハ中央ヨリ携行セシモノトス

二、附屬了解事項ハ佛文ハ渡集政電第八五二號ノ通り改ム

但シ日本文ハ中央ヨリ携行セシモノノ内『「フィリピン」

國ノ防衛ニ付』ヲ『「フィリピン」國ノ領土及獨立ヲ防

衛スル爲』ト改ム

三、比島側全權委員ヲ「レクト」ニ改ム

但シ其ノ書キ方ハ軍務電第三〇六號ノ如シ

編　注　各電報冒頭に便宜的に番号を付した。

798 昭和18年10月14日

「日本國「フィリピン」國間同盟條約」及び

附属了解事項

付記 昭和十八年十月十四日付、陸軍省軍務局軍務

課複写

「日本國「フィリピン」國間軍事祕密協定」

締約國間ニハ相互ニ其ノ主權及領土ノ尊重ノ基礎ニ於テ永久ニ善隣友好ノ關係アルベシ

第二條

日本國「フィリピン」國間同盟條約

大日本帝國天皇陛下及「フィリピン」共和國大統領ハ

日本國ガ「フィリピン」國ヲ獨立國家トシテ承認スルコト

ニ決シタルニ因リ

兩國相互ニ善隣トシテ其ノ自主獨立ヲ尊重シツツ緊密ニ協

第四條

本條約ノ實施ノ爲必要ナル細目ハ締約國當該官憲間ニ協議

決定セラルベシ

第五條

本條約ハ締約國ニ於テ其ノ批准ヲ了シタル日ヨリ實施セラ

ルベシ

第六條

「フィリピン」共和國大統領

國務大臣「クラーロ、エメ、レクト」

右各全權委員ハ互ニ其ノ全權委任狀ヲ示シ之ガ良好妥當ナ

ルヲ認メタル後左ノ諸條ヲ協定セリ

第一條

昭和十八年十月十四日即チ千九百四十三年十月十四日「マニラ」ニ於テ本書二通ヲ作成ス

村田省藏(印)

(付記)

クラーロ、エメ、レクト(印)

日本國「フィリピン」國間軍事祕密協定

昭和一八、一〇、一四

軍務課複寫

日本國「フィリピン」國間同盟條約附屬了解事項  
條約第二條ニ付

同條ニ規定スル大東亞戰爭遂ノ爲ノ軍事上ノ緊密ナル協力ノ主タル態様ハ左ノ通トス

「フィリピン」國ハ日本國ノ爲スベキ軍事行動ノ爲一切

ノ便宜ヲ供與スベク又日本國及「フィリピン」國ハ「フィリピン」國ノ領土及獨立ヲ防衛スル爲相互ニ緊密ニ協力スベシ

右證據トシテ下名ハ各本國政府ヨリ正當ノ委任ヲ受ケ本了解事項ニ署名セリ  
昭和十八年十月十四日即チ千九百四十三年十月十四日「マニラ」ニ於テ本書二通ヲ作成ス

村田省藏  
クラーロ、エメ、レクト

昭和十八年十月十四日即チ千九百四十三年十月十四日「マニラ」ニ於テ本書二通ヲ作成ス  
又「フィリピン」國政府ハ日本國陸海軍ノ要求ニ應シ別

給養、演習、訓練等ニ關スルモノニ應シ且一切ノ便宜ヲ供與スルコトヲ約ス

第一條 日本國陸海軍軍隊ハ大東亞戰爭遂行間「フィリピン」國ニ駐屯シ同國ニ對シ防衛上必要ナル一切ノ援助ヲ與ヘ「フィリピン」政府ハ防衛諸態勢ヲ整備シ其他防衛上必要ナル一切ノ手段ヲ講スルコトヲ約ス

第二條 日本國陸海軍軍隊ハ大東亞戰爭遂行間現ニ有スル

軍事行動上一切ノ自由(軍法會議及軍律會議ノ適用、憲兵ノ軍事上ノ必要ニ基ク警務執行、軍憲ノ軍事上ノ必要

ニ基ク通信檢閱ヲ含ム)ヲ保有シ「フィリピン」國政府ハ前掲ノ事項ヲ承認スルト共ニ日本國陸海軍軍隊ノ軍事

行動上必要ナル要求(基地及施設ノ使用及設定、航空及交通通信機關ノ使用、利用又ハ設定、土地建物ノ提供及所要施設ノ實施、徵發、軍需品及勞務者ノ供出、宿營、

又「フィリピン」國政府ハ日本國陸海軍ノ要求ニ應シ別

ニ協議決定セラルトコロニ從ヒ日本國陸海軍軍隊ノ必

要トスル軍需品並其ノ管理スル企業及其ノ生産品ニ對ス  
ル課稅其ノ他ニ付キ軍事上ノ祕密保持ニ必要ナル行政上

ノ特例ヲ設クルコトヲ約ス

第三條 「フィリピン」國政府ハ大東亞戰爭遂行間「フィ

リピン」國領土保全及獨立防護ノ爲ノ協同防衛ヲ全フス

ル爲「フィリピン」國領土内ニ於テ「フィリピン」國警

察隊ヲ其ノ軍事行動ニ關シ又將來設置セラルヘキ「フィ

リピン」國陸海軍ヲ「フィリピン」國領土内ニ於ケル用

兵作戰ニ關シ夫々「フィリピン」國ニ駐屯スル日本國陸

海軍最高指揮官ノ指揮ニ入ラシメ「フィリピン」國內ノ

治安ニ關シテハ「フィリピン」國政府之カ維持シ難キト

認メラルル場合同國官憲ヲシテ日本陸海軍最高指揮官ノ

必要トスル統制ニ服セシメ防空沿岸内海防備等ニ關シテ

ハ日本國陸海軍最高指揮官ノ必要トスル統制ニ服セシム

ルト共ニ「フィリピン」國陸海軍ノ兵力量及編成ノ決定

ニ付キ日本國陸海軍最高指揮官ノ指導ヲ受クルコトヲ約

ス

第四條 本協定ノ實施ノ爲必要ナル細目ハ別ニ協議決定セ

ラルヘシ

第五條 本協定ハ署名ノ日ヨリ實施シ且效力ヲ發生セラル  
ヘク右ノ證據トシテ下名本協定ニ署名調印セリ

昭和十八年十月 日即チ(癸卯)年月日「マニラ」ニ於テ

日本文及英文ヲ以テ本書名(癸卯)通ヲ作製ス

日本文及英文ヲ以テ本書名(癸卯)通ヲ作製ス  
ヲ決ス

「フィリピン」駐屯日本國陸軍最高指揮官

「フィリピン」方面日本國海軍最高指揮官

「フィリピン」共和國大統領

編注 日本国フィリピン国間軍事秘密協定は昭和十八年十月

二十日に調印された。

799 昭和18年10月14日

フィリピン独立に関する政府声明

十月十四日「フィリピン」ハ多年ノ宿望ヲ達成シ、茲ニ  
其ノ獨立ヲ中外ニ宣言セリ。依テ帝國ハ、直チニ同國ヲ承

認シ、且同國トノ同盟條約ニ署名調印ヲ了セリ。

「フィリピン」ハ他國ヨリ統治セラルコト四百年、其ノ間獨立ヲ所期スルヤ切ナルモノアリ。而モ多年ノ努力ニ依リ、漸ク、米國ヨリ約諾ヲ得タル獨立ハ、畢竟米國ノ利益ノ爲ニスルモノニシテ、眞ノ獨立ニアラザルコトハ、

「フィリピン」民衆ノ最モ良ク知ル所ナリ。然ルニ大東亞戰爭勃發スルヤ、忽チニシテ米國ノ勢力ハ「フィリピン」

ヨリ一掃セラレ、爾來二年ニ満タザルニ、茲ニ、同國民衆多年ノ念願タル眞ノ獨立ノ日ハ到來セリ。東亞積年ノ禍根ヲ芟除シ道義ニ基ク新秩序ノ建設スル帝國トシテ洵ニ同慶ニ堪ヘザル所ナリ。

既ニ大東亞ノ地域ニ於テハ、中華民國、「タイ」國及「ビルマ」國ハ、帝國ト緊密ナル協力ノ下ニ、共同ノ戰爭完遂ニ邁進シ、滿洲國、亦總力ヲ擧ゲテ、一億一心、帝國ニ協力シツツアリ。此ノ秋ニ當リ新生「フィリピン」國ヲ加フ。斯クテ大東亞ノ諸國家諸民族ハ、悉ク、其ノ本然ノ特性ヲ發揮シ、不動ノ結束ヲ固ムルニ至ル。大東亞共榮ノ爲、世界永遠ノ福祉ノ爲、帝國ノ洵ニ欣快トスル所ナリ。

帝國政府ハ、重ネテ「フィリピン」國ノ獨立ヲ衷心ヨリ

慶祝スルト共ニ、大東亞ノ諸國家、相携ヘテ、俱ニ倚リ、俱ニ信ジ、相互ニ其ノ自由獨立ヲ尊重シツツ、大東亞戰爭ノ完勝、大東亞建設ノ完成ニ邁進シ、以テ、萬邦共榮ノ大理想ヲ達成センコトヲ期シ、茲ニ帝國政府ノ所信ヲ中外ニ闡明ス。

800 昭和18年10月14日 在スペイン須磨公使より

重光外務大臣宛(電報)

### フィリピン独立の承認要望に対するスペイン 側意向及び米英の反応について

マドリード 10月14日後10時00分発

本 省 10月16日前11時30分着

第一〇九一號(極祕)

往電第一〇六八號(ノ一)及閣下發獨宛電報第七五七號ニ關シ

本十四日「ホルダナ」外相ト會見シ帝國政府ノ關係ニ基キ本日ヲ以テ獨立共和國トナリタル比島新國家ノ承認ヲ要望スル旨ノ公文ヲ手交シタル上比島ト西班牙トノ傳統的關係ヨリハ勿論同國內ニ於ケル西班牙人ノ重大利害關係、就中

## フィリピン独立承認をバーモウ了解について

最近ニ於ケル送金問題、西班牙總領事ノ職務執行等種々ノ問題ニモ鑑ミ速ニ承認ヲ與フルコト望マシキ旨申入レタル處同外相ハ本件ニ付テハ「フランコ」將軍トモ豫々相談シ

居レルカ先般御話申上ケタル通り戦争中ノ承認問題ニ關シテハ他ノ中立國トモ申合セノ上原則トシテ戰後ニ讓ルコト致シ居レルモ右ハ一般的原則論ニシテ例外ハ勿論アリ得ル次第ニシテ比島國承認ニ付テハ西班牙トシテハ事情ノ許

ス限り特別ノ考慮ヲ拂ヒ居ルコト丈ハ茲ニ申上ケ得ヘク何レ篤ト研究ノ上御返事申上クヘシト述ヘ居リタリ尙其ノ際外相ハ西班牙ノ有スル情報ニ依レハ米ハ日本ニ先立チ比島ニ獨立ヲ與ヘント工作シ居リタルカ日本側ニ先ンシラレタル結果トナリ此ノ問題ノミナラス曩ニハ緬甸ノ獨立モアリ東亞ニ於テ日本カ共榮圈内ノ各民族ニ與ヘタル約束ヲ一ツ一ツ實行ニ移シ行ク爲米英トシテハ其ノ立場カ却テ苦シクナリツツアルコトヲ自覺シ居レリト云フト附言シ居リタリ右不取敢

往電第四三號ニ關シ

ヤンゴン 10月16日前9時00分発  
本省 10月17日後1時20分着

第四五號(緊急)

トシテハ獨立通電接到次第承認ノ電報ヲ發送スヘク準備シ居リタルカ「バーモ」總理ハ來ル十九日ノ閣議ニ附議シタル上承認ノ手續ヲ執ルヘシトノ意見ナルニ付テハ自分ト共ニ早速同總理ヲ往訪シ速ニ承認ノ必要アル事情ヲ貴官ヨリ篤ト總理ニ説明アリタシト述ヘタルニ付北澤ハ直ニ外務大臣ト同道總理ヲ往訪シ獨立ノ通電接到次第直ニ承認スル様前廣ニ外務大臣ニ申入レ置キタル次第ナルカ既ニ滿洲國及中華民國モ承認シ居リ此ノ上緬甸國ノ承認カ遲ルルコトトナラハ諸般ノ關係上面白カラサルニ付直ニ承認ノ措置ヲ執ラレタシト述ヘタルニ同總理ハ事情篤ト了解シタルニ付本

日直ニ承認ノ手續ヲ執ルヘシト答ヘタル趣ナリ  
比律賓へ轉電アリタシ

802 昭和18年10月16日

在独国大島大使より  
重光外務大臣宛(電報)

斐リピン独立承認に関する獨国との協議について

ベルリン 10月16日前0時55分発  
本省 10月16日後7時35分着

第一二二五〇號(緊急)  
貴電第七九五號ニ關シ

御來示ノ次第ハ當時獨外務省及當地「スロバキヤ」公使館ニ申入ルルト共ニ獨外務省ニ對シテハ伊太利政府ヘノ右通達方並ニ「スロバキヤ」政府ヘノ斡旋方依頼シ置キタルカ十五日政務局長「ヘンケ」ヨリ本使ニ對シ電話シ來リ「フイリツピ」ヨリハ未タ獨立宣言ノ通告ニ接セサルモ「リ」外相ハ日獨兩國ノ緊密化ヲ示スト共ニ「フイリツピ」ニ對スル「ゼスチュア」トシテ右通告ヲ待タス速ニ承認ヲ行フコト機宜ニ適スト考ヘ本使ノ意見承知シ度キ旨申シ來

レルヲ以テ本使ヨリ右ハ政治的效果ノ點ヨリ迅速ナルヲ希望スル旨回答スルト共ニ河原ヲ「ヘンケ」局長ノ下ニ派シ本件通告文發表方法等ニ付協議セシメタル結果左ノ通取計フコトニ決定セリ

一、本十五日「リ」外相ヨリ「フイリツピ」大統領宛(東京經由)獨政府ハ日本政府ヨリ「フイリツピ」共和國カ十四日獨立ヲ宣言シ米國トノ關係ヲ斷絶セル旨並ニ同國政府カ獨政府ニ依ル承認ヲ希望シ居ル旨通報アリタルヲ以テ茲ニ承認ヲ行フ旨電報ス

二、伊太利ニ對シテハ「ラーン」全權ヲ通シ右獨政府ノ措置ヲ通報シ且同様措置方勸説ス

三、十六日午後一時獨政府ハ別電第一二二五一號ノ「コンミュニケ」ヲ發表ス

803

昭和18年10月19日

在スペイン須磨公使より  
重光外務大臣宛(電報)

斐リピン及びビルマ独立に対するスペイン  
の対応振りについて

#### 四 占領地への独立付与問題

マドリード 10月19日後11時00分発

本 省 10月21日前10時55分着

第一一二二號

往電第一〇九一號ニ關シ

「ホルダナ」外相ヨリ十六日附公文ヲ以テ本件ニ關スル研究ヲ命シタルニ付決定次回回答スヘキ旨申越シタルカ曩ニ緬甸承認申込ノ際ハ口頭ヲ以テ研究スヘキ旨述ヘタルノミナル點ニモ鑑ミ比島政府承認問題ニ對シテハ相當ノ關心ヲ示シタルモノト認メラル右不取敢

oooooooooooo